①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
1	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格率の維持・向上	◆３学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%）。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：△ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 国家試験合格状況 はり師：①本学 74.1%、②全国平均 70.4% ③本学新卒 78.4%、④全国新卒 85.8% きゅう師：①76.4%、②70.2%、③82.4%、④86.2% 新学期オリエンテーション時より年間を通じて2年生～4年生に対して国家試験合格に向けた指導を行った。既卒者を含めた全体の合格率は全国平均を上回ったが、新卒者の合格率は、はり師・きゅう師ともにやや下回った。留年者数と国家試験合格率のバランスを図った結果、約80%の合格率を維持することはできた。 ◆柔道整復学科 　計画通り、国家試験の合格率の向上のために、模擬試験の後に実施する個別面談の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。また昨年同様、グループ学習を導入し、学生が自主学習できる機会を増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率（100%）を達成することができなかった。 ◆看護学科 　看護師国家試験、保健師国家試験ともに新卒合格率は100%であった。	
2	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	成績上位者に対する研究意欲向上のための施策	（2023年度　計画なし）			
3	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	出欠席管理の徹底による出席不良者への指導	◆３学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　各学年の学生アドバイザーを中心にアクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に発見しその対応に努めたこと、またその情報を学科教員全員に学科共有ファイルと学科会議にて共有できるよう努めたことで、学生アドバイザーを中心とし早期の対応ができた。しかし心身の問題を抱える学生もおり、そのような学生に対しては、学生総合支援室、また保護者とも連携して対応したが退学者も多く、先行きが見込めない学生については、進路変更を含めた早期対応も必要となってくると思われる。 ◆柔道整復学科 　アクティブポータルの出欠確認の設定（アラートメール）を活用したことで、出席不良者（欠席の合計が10回以上/2週間）を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ◆看護学科 　出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダー/サブリーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
4	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学力把握のためのアドバイザー制度の充実	◆３学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科；◎	◆鍼灸学科 　各学年の学生アドバイザーを中心に、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生総合支援室と連携して学生の学修状況を把握した。 　成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を共有ファイルに記載、毎月の学科会議の学生の動向で報告するなど、学科全教員でその状況を共有し、各学生に対し、複数教員でのサポート体制で臨んだ。必要に応じて学生総合支援室との連携や保護者を含めた面談を行った。 ◆柔道整復学科 　期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ◆看護学科 　昨年度同様、出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施した。	
5	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラムの検討及び改善	◆３学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　2021年度から続けてきた成績を考慮した卒業論文のフォーマットの改定により、2021年度と同様に成績下位者と指導教員の卒業研究に係る負担を軽減したが、国家試験の合格率アップには至らなかった。 　全入の上、学力が低い学生数が増加傾向にあり、このような状況に合わせたカリキュラムの検討を行う必要が出てくると思われるが、教育課程の質を維持することとのバランスを考えると、現カリキュラムでの今後の推移をもう少し見ていく必要があると思われる。 ◆柔道整復学科 　2025年度スタートのカリキュラム改訂にむけて、全体の再評価を行うことができた。 ◆看護学科 　2019年度に新カリキュラムを導入し、今年度で5年目となった。次期カリキュラム改正に向けた現行カリキュラムの評価については適宜問題点の洗い出しを実施した。	
6	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	~~教養特講による基礎学力の強化~~ ↓ **低学年からの少人数ゼミによる基礎学力の強化**	◆看護学科 引き続き、全学年で少人数ゼミを実施。1，2年生では基礎学力の向上のため、3，4年生では研究力向上のためのゼミナールの実施と評価。	看護学科：◎	◆看護学科 　2019年度新カリキュラムから、基礎学力の向上を目指し、少人数グループによるゼミナール形式の授業を1年生から実施している。今年度も引き続き1，2年生混成のゼミナール構成を導入し、上級生が下級生を指導することにより向上を図った。全学年が新カリキュラム2年目となる今年度においては、研究ゼミナールについて上級生による下級生の指導が継承され、年次ごとに学ぶべき内容が徹底強化された。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
7	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	**カリキュラム・ポリシーに則した**学部の充実を意図した教育内容の評価	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	◆教務課：○	◆教務課 ①②について、さらなる学修者本位の教育を目指して、第2期中期計画に新教育課程の検討を明示した。また、教務委員会においても教養科目の見直しやキャリア教育科目の検討について議論を重ねた。 ③については、FD研修会を通じて、他学科の学びを共有することをテーマに各学科の取り組み事例等を紹介し、さらに、グループディスカッションを通じて他の学科や専門領域の授業でも共通している課題や工夫なども意見交換することができた。	
8	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	**カリキュラム・ポリシーに則した**大学院の充実を意図した教育内容の評価	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	◆学務部（大学院）：○	◆学務部（大学院） 共通科目及び専門科目について、開講科目の整理、CP・DPの検証を第2期中期計画に明示した。（2026年度入学生を対象にｶﾘｷｭﾗﾑ改正予定）	
9	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	教育の実施体制	引き続き、 ◆3学科 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ◆教務課 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ◆国際交流センター 留学生の受入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ◆図書館 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ◆大学院 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。 ◆IR委員会 学長からの特命事項として、教員業績調査を実施する。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ ◆教務課 ◎ ◆大学院 ◎ ◆図書館：○ ◆IR委員会：◎	◆鍼灸学科 「附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ」「社会鍼灸学」「卒業研究」「鍼灸経営論」「学外実習」などの科目を中心に地域社会における鍼灸の意義・役割に関する意識を高める教育、またその基盤となる研究を継続した。 ◆柔道整復学科 教員だけでなく、大学院生も一緒になって学部生をサポートする体制が整ったことで、学部生の教育研究活動をサポートすることができた。 ◆看護学科 引き続き組織の見直しや教員の適正な配置を行った。 ◆教務課 FD研修会を「各学科の取り組み事例を学びあう」をテーマに、12月21日に鍼灸学科主催、３月6日に柔道整復学科主催、3月8日に看護学科主催と年3回、対面方式で実施をした。対面で参加が出来なかった教員には、オンデマンドで配信をして、フォローを行った。各学科の取り組み事例等を紹介に加えて、グループディスカッションや質疑応答を通じて他の学科や専門領域の授業でも共通している課題や工夫なども意見交換することができた。 ◆大学院 研究指導や教育支援体制を強化するため、2024年度から、新たに大学院科目担当教員として若手教員を追加をした。（鍼灸学分野3名、柔道整復学分野2名、看護学分野1名） ◆図書館 図書館では、医学文献データベース4種（国内2種＋外国2種）を運用し、学外からもアクセスできる環境の整備に努めた。 ◆IR委員会 今年度より教員業績調査を実施した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
10	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学生のPC必携化、ペーパーレス化の推進	（2023年度　計画なし）			
11	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	授業収録･配信の必要性や効果の検証･実施	◆情報センター 効果を検証し、次期整備計画の検討開始。	情報センター：◎	次期整備計画立案のため、3学科の実習室(※)の機器を更新するための仕様を取りまとめ、見積を取得した。 ※1階基礎・成人実習室、4階・5階 鍼灸学科実習室、6階 基礎医学実習室、7階 柔道整復学科実習室	
12	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	授業･研究で役に立つコンテンツの整備	（2023年度　計画なし）			
追加1	教育研究等の質の向上	**ディプロマ・ポリシーを反映させた教育の実践**	**専門職としてのビジョン創造の支援**	◆鍼灸学科 臨床家としての心構えや将来展望を描けるようにするための、附属鍼灸センター関連授業や就職ガイダンスの実施。 ◆柔道整復学科 臨床実習や附属接骨センターでの実習を通して、学生が柔道整復師としての将来像を描けるように支援する。 ◆看護学科 引き続き、看護専門職として様々な活躍の場について情報提供し、どのようなキャリアを積んでいくのかビジョンを描けるよう支援する。 ◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。今年度より卒後3年経過した卒業生に対してのアンケート調査を実施し、卒業時点での「ディプロマ･ポリシーの達成度」の認識の変化を分析し、各学科に還元する。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：◎ IR委員会：◎	◆鍼灸学科 　専門科目である「附属鍼灸センター実習」を軸とした鍼灸医学の臨床科目、および卒業後の将来像を描く「鍼灸経営論」などの科目により、将来につながる教育を行った。就職に関しては、就職ワーキンググループを中心に全学年に対する就職セミナーの実施、企業紹介、求人情報、卒業生による講話を視聴できる就職支援サイトをweb上に構築、卒業生のキャリア/プロフィールシートを学生課に設置して閲覧可能にするなど学生が将来展望を描きやすくできるよう努めた。また大学祭においては卒業生による就活に関する講演会を開いた。その結果、就職活動を早い時期から意識する学生が増加した。 ◆柔道整復学科 臨床実習（外部実習）や附属接骨センターでの実習では、見学だけでなく、柔道整復師の業務について、教員と学生間で十分にディスカッションする時間を確保することができた。 ◆看護学科 　高学年においては例年通り、実習や就職セミナー等を通じてさまざまな看護、医療の現場を知る機会を提供するとともに、低学年においてもゼミナール等で看護学科教員のキャリアについて知る機会を設けた。またゼミナールでは、本学部のディプロマポリシーについて理解を深めるための全体講義を実施した。 ◆IR委員会 　学修行動調査における「ディプロマ・ポリシーの達成度」の調査結果を各学科に還元した（結果の分析は未着手）。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
13	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	学生サポート体制	◆３学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：○	◆鍼灸学科 　成績不良者に対して対面また必要に応じて遠隔による補講や個別指導も行った。大学院生による学習支援も大きなサポートとなっている。 　入学前授業の実施、国家試験対策（国家試験ワーキンググループを中心）の継続と検討、学生アドバイザー制で、ディプロマポリシーを入学者全員が達成できることを目標とする体制を継続した。 　図書館の協力を得て、学部生の文献検索やレポート作成にかかわるサポートを行った。 　学科の就職WGを中心に各学年に対する就職セミナーを実施したほか、企業紹介や求人情報、卒業生による講話などの情報に、学生がいつでもアクセスできるような就職支援サイトをweb上に構築した。また、新たに卒業生のキャリア/プロフィールシートを学生課に設置して閲覧可能にした。また大学祭のホームカミングデイを利用して卒業生による就活に関する講演会を行った。 ◆柔道整復学科 各学生を担当するアドバイザーによるサポートの強化を行った。具体的には最終学年の学生に対して面談を行うことで、希望する進路（就職先を含む）を把握することができた。またアドバイザーにより成績不良や欠席の多い学生に対して面談を実施できたことは、早期に学生のニーズを把握する上で有用な手段となった。 ◆看護学科 　入学前授業を実施し、入学前から入学後の大学生活や学習の意識づけを強化し、入学前後のドロップアウトの防止を図った。 　入試および毎年の成績を評価し、必要時、学生アドバイザーの選定等、効果的な学生指導を行うための情報として活用した。 「少人数制で面倒見のいい大学」を実現するため、1年次から少人数編成によるゼミナールを行い、1，2年生混成ゼミナールを開講するとともに、全学年が新カリキュラムとなった昨年度に引き続き3～4年生混成ゼミナールを開講した。 ◆学務部 　学生総合支援室で障害者対策や学修支援など、教員との連携によるサポートを強化するとともに、学生課で経済的困難者に対する授業料免除制度及び国の高等教育修学支援制度の的確な運用に努めた。 　入学前授業を3学科ともに行い、大学入学後に行われる学修につながる課題を提示し、入学までの期間に取り組ませた。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
14	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	教育の質の充実を目的とした授業評価アンケートの実施	◆３学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：○	◆鍼灸学科 　各教員への授業評価アンケートのフィードバックはあったが、評価結果の解釈は難しく、学科全体としての情報共有は行わなかった。 　学生ニーズの把握のため、オリエンテーション時に学科学生に対するアンケートを行った。 ◆柔道整復学科 授業評価アンケートの公表により、各教員へアンケート結果がフィードバックされた。また他の教員のアンケート結果が閲覧可能になったことから、それらを参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆看護学科 　授業評価アンケートの結果が公表され、各教員へフィードバックされた。昨年度に引き続き、他の教員のアンケート結果を参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆学務部 　授業評価アンケートの当該教員へのフィードバックは実施し、共有を図った。 　FD研修会では3回にわたり各学科の教育上の取り組みや教育方法のあり方など特徴的な取り組みについてのプレゼンテーションがあり、情報共有するとともに、グループディスカッションや質疑応答を通じて、議論を深めた（授業等により参加できなかった教員にはオンデマンドで配信してフォロー）。 ◆大学院 　大学院生の研究の充実に向けて、大学院生から在学生オリエンテーションにおいて意見聴取をした。また、TAの役割や基本的な心構えについて理解を深めることを目的に、TA研修会を実施した。	
15	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握 （基礎学力の強化と検証の再掲）	◆３学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　各学年の学生アドバイザーを中心に、アクティブポータル、個別面談、卒業研究ゼミ、日常の学生との歓談などによって、学生の学習意欲や出欠席や成績の状況、ニーズについての把握について努め、学科共有ファイルや学科会議にて情報を共有した。 ◆柔道整復学科 学科会議にてアドバイザーより各担当学生の学習意欲（成績不良、欠席日数）等を報告することで、アドバイザーだけでなく、学科内の教員で学生の現状把握に努めた。 ◆看護学科 　学年ごとにアドバイザー、アドバイザーサブリーダー、アドバイザーリーダーの連携による成績不振者、出席不振者を中心とした学習意欲等の把握および個別指導を行うとともに、ポータルサイトを活用し、必要時、教職員間での学生に関わる情報の共有を図り、連携して対応を行った。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
16	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	意見箱の活用	◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	鍼灸学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：○	◆鍼灸学科 　学生ニーズは学生アドバイザーや学科の教員が学生との面談や日常会話で直接得ることができ、必要に応じて学科内で共有・検討した。在学生オリエンテーション時に学生の要望などを聞く学生アンケートを実施した。食堂の夜間運営、購買の設置、廊下にエアコンが欲しい、体育館をもっと自由に使いたい、カフェテリアに1人席が欲しい、加湿器を置いてほしい、軽食やお菓子の自販が欲しいなどの要望が見られた。 ◆看護学科 　昨年度同様、意見箱の内容については、学科として回答をおこない、意見及び回答を共有した。 ◆学務部 　意見箱の内容については、学生委員会に報告・検討している（ただし、投函される意見要望件数が少なく、大半が無記名）。それ以外に、学生サポートセンターで、直接学生からの要望を聴くことが多い。	
17	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	積極的な課外活動（サークル活動など）の支援	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	学生委員会：○	◆学生委員会 　サークル数が減るなど停滞してしまったサークル活動をコロナ禍前のような活発な活動になるよう支援した。	
18	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	◆３学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：◎ 学務部：○	◆鍼灸学科 　各学年の学生アドバイザーがアクティブポータルで学生の出欠をチェックし、欠席が多い学生は内容を学科共有ファイルに記入するとともに、個別面談・指導を行った。また、必要に応じて学生総合支援室と連携して保護者を交えた面談を行い、詳細な状況や面談の内容を学科会議で報告し、学科全体で共有し対策を検討した。しかしながら、学習障害者やモチベーション低下による成績不良者の対応は難しく、退学に至るケースが多かった。留年者、退学者数を減らすことは難しかったが、最小限の人数に留めることができたと考える。 ◆柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、および大学での学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザサブリーダー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いその共有化を推進し、年度途中における成績不振者、出席不振者およびその対応の評価をした。 ◆学務部 　学生アドバイザー制度の活用により学生との接点を増やし、学生指導を徹底しつつ、学生総合支援室と教員との連携機会が増加した。 　成績不振者ガイドラインに基づいた、退学・留年予備軍の把握、学生指導を実施した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
19	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	◆３学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの活用。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生･研究生･外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　全学年についてアドバイザーがアクティブポータルを利用して低学力者のスクリーニングを年間を通して行った。1,2年生については、学生アドバイザーを中心に学期末試験、再試験の結果や欠席数などをもとに、問題があると思われる学生について面談・指導を行った。3年生については、上記に加え、卒業研究担当教員による指導、国家試験ワーキンググループによる補講を実施した。4年生については国家試験ワーキンググループによる夏・冬季休暇期間中を含め、年間を通しての補講の実施とともに、成績下位者を対象として国家試験前の約3か月間、遠隔による個別の補習を実施した。 　成績不良者については科目担当者、卒業研究担当者が適宜面談し、成績向上に向けての指導を行い、また種々の問題を抱える学生に対しては必要に応じて保護者も交え、学生総合支援室の臨床心理士も加わった形での面談・指導を行った。 ◆柔道整復学科 早期より学生に対して試験対策を含めたアプローチを行うことができた。そのことで退学者の大幅な減少につながった。 ◆看護学科 　アドバイザー、アドバイザーサブリーダー、アドバイザーリーダーにより、成績不振者、出席不良者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いて共有し、年度途中での脱落者に対応した。	
20	教育研究等の質の向上	退学率の改善	出欠席管理の徹底	◆３学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　各学年の学生を対象にアクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に見つけ、学生アドバイザーや卒業研究担当教員を中心に学生に注意喚起し、必要に応じて学生総合支援室と連携して面談・指導を行った。出席数不足による学期末試験受験不可を避けられた学生もいたが、その多くは留年や退学に至った。 ◆柔道整復学科 アラートメールを活用したことで、出席不良者を早期かつ容易に把握することが可能となった。 ◆看護学科 　各科目においてAPによる出欠管理の徹底を図るとともに、アラートメールによる出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、学年ごとにアドバイザーリーダー/サブリーダーが状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
21	教育研究等の質の向上	退学率の改善	アドバイザーによる成績不良者等要指導者に対する継続指導の徹底	◆３学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　各学期の終了後、1,2,3年生については、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては面談・指導、更に必要があれば保護者面談を実施した。4年生については特に通年で実施する各総合実力試験の結果を受けて学生アドバイザー面談、学習指導を行った。 　全学年の学生の状況については、学科共有ファイルや学科会議でのアドバイザーによる学生の動向報告などにより共有し、学習に問題がある学生の早期発見に努めた。 　心身の問題や学習障害など指導に専門的知識が必要とされる場合は学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を行った。 ◆柔道整復学科 アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学科会議時に学生の動向（気になる学生）の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。 ◆看護学科 　アドバイザーによる指導を徹底。指導については、学年ごとにアドバイザーリーダー/サブリーダーが状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	
22	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	◆３学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生･研究生･外部者などの有効利用開始。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎	◆鍼灸学科 　教員ではその対応に限界がある学生については、学生総合支援室と連携して学生支援を行うことで、対応が難しい問題を抱える学生に対して、より専門的で細やかな指導や助言が可能となった。しかし、受験者がほぼ全員入学する現状では基礎学力の低い学生や心身に問題を抱えた学生が増加し、その対応が難しく、留年や退学に至るケース、あるいはむしろ進路変更を進めた方が良いと思われるケースが増えている。4年生の成績下位者に対する国家試験対策の支援に関しては、TAのほか、研究生や大学院生が大きな助けとなった。研究生や大学院生、更に博士後期課程を修了した博士号を持つ卒業生の活用を組織的に実施できるようになると学生指導に大きなプラスになると思われる。 ◆柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生などで大学での生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。 ◆看護学科 　必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を実施。 ◆学務部 　学生総合支援室において学修支援を行っている。また、大学院生によるＴＡ制度を活用し、学部指導補助も行った。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
23	教育研究等の質の向上	退学率の改善	経済的側面に対する支援制度の継続的実施	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	財務部：○ 学務部：○	◆財務部　学務部学生課と連携を取りながら、経済的に困難な学費未納者が即時に除籍等にならない様、延納承認手続きを粘り強く実施。 ◆学務部 授業料免除等規則の経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者も授業料免除の対象者とし、中途退学防止策とした。	
24	教育研究等の質の向上	退学率の改善	保護者との連携強化	◆３学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 留年や退学につながる可能性のある、成績不振や欠席が多いなどの問題がある学生については学生アドバイザーが保護者と連絡を取り、学生の成績などの状況を共有し、必要に応じて学生アドバイザーを中心とする教員や学生総合支援室と連携して、保護者と面談し、留年や退学の防止に努めた。4年生の保護者面談は10月に成績不良者と面談希望者に対して遠隔で行った。 ◆柔道整復学科 成績不良者に対して教員（学生総合支援室を含む）より保護者に電話連絡や面談を行うなど、可能な限り退学率の改善に努めた。 ◆看護学科 必要時、保護者との面談や電話相談を実施し、就学継続を確認し、保護者と連携して学生の学修継続支援を行った。就学継続が困難なケースについては理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とした。	
25	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	看護学科:◎	◆看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	
26	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦入学者の評価を行い、指定校推薦入試の枠の評価を行った。	
27	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学務システムの改善と有効活用	（2023年度　計画なし）			
~~28~~	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	~~治療体験・健康相談等実施（附属鍼灸センター）~~ （削除、NO.31へ）				
~~29~~	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	~~研究を含めた来院患者等に関連した医療機関との連携推進（附属鍼灸センター）~~（削除・NO.55へ）				

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
~~30~~	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	~~高校生・地域向けセミナー等の開催~~ （削除、NO.31、NO.59へ）				
31	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	行政（江東区）、地域団体・機関及び~~有明スポーツセンター~~近隣住民との連携	◆鍼灸学科 近隣機関との連携・地域協力推進。 附属鍼灸センター(研修スタッフ)や鍼灸学科(教員、大学院生、学部生)による地域向けセミナー・健康相談等の開催。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 豊洲フェスタ、有明まつり、とよすパークフェスタに参加し、ブースの出展や講演活動を通じて、大学祭においては附属鍼灸センターによる体験治療にょって、地域住民との交流や、来場者に対する鍼灸の啓蒙活動を行った。 近隣住民に対する啓蒙活動の一環として、中央区区民カレッジ（聖路加国際大学連携）まなびのコース「見つけよう！自分に合った健康法：体を整えよう」において鍼灸学科教員による講演を行った。 また、かえつ有明高等学校1年生に対して鍼灸に関するアクティブラーニングや鍼灸センターの見学を鍼灸学科教員、大学院生、鍼灸センタースタッフで行った。	
32	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	本学の人的資源を活かした連携	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業（柔道）の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 少年柔道教室を週2回開催し、地域の子供達を中心に約50名が稽古に励んだ。	
33	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	有明マンション連合自治会との連携	◆柔道整復学科 引き続き、TAU健康体操教室を企画し、さらなる地域連携を強化。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 10～11月に地域の住民（延べ30名）を対象にTAU健康体操教室（全7回）を開催した。	
34	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	附属クリニック/接骨センターの活用	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	柔道整復学科：◎	近年、接骨センターの患者数も増加していることから、地域住民の健康の保持・増進に貢献できていると考える。また附属接骨センターは附属クリニックとの連携が密であり、患者の後療依頼などが円滑に行うことができた。	
35	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	図書館の開放	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	図書館：○	◆図書館 専門図書館の機能を地域の方が利用できるよう開放した。	
36	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	江東区内各所におけるボランティア実習	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学）	看護学科：◎	◆看護学科 2019年度導入以降、関連機関ならびに教務予定等との調整を行い、ボランティア実習を実施するとともにその評価を実施した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
37	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	公衆衛生看護学実習先企業の健康管理業務への提言	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	看護学科：◎	◆看護学科 公衆衛生看護学実習が、実習先企業との協定内容のとおり行われているか途中評価を実施。	
38	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	シミュレーション・ラボにおける訪問看護師の卒後教育の実施	◆看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	看護学科：△	コロナウイルス感染症の状況が不透明であり、実施に至らなかった。今後運用についての検討の必要がある。	
39	教育研究等の質の向上	他大学との連携	共同研究の推進（他大学/他学科）	◆３学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○	◆鍼灸学科 米国Harvard Medical School の Ted Kaptchuk教授(本学客員教授)及び Jian Kong教授(本学客員教授)、イリノイ大学看護学部のJudith Schlaeger准教授(本学客員教授)及びCrystal Patil教授（同大学看護部長）、フロリダ大学看護学部Diana Wilkie教授、東京大学の久保啓太郎准教授、東京大学の中澤公孝教授との共同研究を継続した。 ◆柔道整復学科 他大学の教員と連携し、積極的に共同研究を実施することができた。 ◆看護学科 個々の教員がそれぞれの研究テーマに応じ、それぞれ他大学と連携し、共同研究などを実施した。	
40	教育研究等の質の向上	他大学との連携	国際交流推進	◆学務部 引き続き、左記国際交流推進体制の継続・検証・改善。PDCAサイクルの推進。	学務部：◎	◆学務部 看護学科はコロナ禍以前のように7月にシンガポールの学生の受け入れと3月に本学学生のシンガポールに派遣を行った、また新規でオーストラリアバサーストにあるにチャールズ・スタート大学に学生の派遣を行った。	
41	教育研究等の質の向上	他大学との連携	MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	◆鍼灸学科 教育の質の向上を目的とした、MCPHS大学、ハーバード・メディカル・スクール、イリノイ大学 との連携による学生研修。	鍼灸学科：△	◆鍼灸学科 2024年度研修の実施に向けた準備をする予定であったが、円安、旅費、物価の高騰などにより、旅費が従来の倍近くになったことや2025年度の入学者数の激減を考慮して、2025年度のボストン研修は見送り、今後のボストン研修のあり方と2025 年度研修の実施に向けて検討することとした。 学外実習については、東京大学医学部附属病院リハビリテーション科、埼玉医科大学病院東洋医学センター、同かわごえクリニックにおいて見学実習を行った。	
42	教育研究等の質の向上	他大学との連携	シンガポール国立大学看護学部	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	看護学科：○	◆2023年7月10日~14日シンガポール国立大学看護学部生10名受け入れ。 ◆2024年3月18日~24日シンガポール国立大学看護学部へ本学看護学部看護学科の学生４名（3年次生1名、2年次生3名）が派遣された。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
43	教育研究等の質の向上	他大学との連携	オーストラリアCharles Sturt大学	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	看護学科：○	◆看護学科 2023年8月7日~18日オーストラリアCharles Sturt University(以下CSU）へ学生3名（2年次生3名）の派遣が行われた。今後の受け入れに向けて、2023年11月3日、CSUのMichael Kierman教授と話し合った。	
44	教育研究等の質の向上	他大学との連携	モンゴル国立医療科学大学	◆柔道整復学科 ・引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 モンゴル国立医療科学大学からの短期研修の受け入れの準備を行う。 またモンゴルの留学生（大学院博士前期課程）２名も来日し、研究活動を行った。	
45	教育研究等の質の向上	他大学との連携	龍仁大学校（韓国）	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	柔道整復学科：△	◆柔道整復学科 新型コロナウイルスの影響で次回の世界大会に向けた稽古を行うことができなかった。	
46	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	国家試験結果の公表	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加える。	事務局：○	◆事務局 過去5年分（2018～2022）の国家試験結果をHPに公表している。 国家試験結果とともに、他の資格試験結果（公認アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者）を掲載しており、その発表が例年6月に行われるため、公表が遅れる傾向にある。	
47	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生の研究成果公表	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。 ◆柔道整復学科 学生による研究成果を関連の学術大会や学内の発表会で積極的に公表していく。 ◆看護学科（追加） 引き続き、学生の研究成果の学内公開を実施する。 ◆看護学研究科 学術集会やジャーナルを通して積極的に社会還元を図る。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 看護学研究科：○	◆鍼灸学科 冊子体の卒業論文集を電子化して作成した。公表の仕方については検討し公表する予定である。全日本鍼灸学会学術大会において、学部生1名の研究発表がなされた。 ◆柔道整復学科 9月21日に学内にて卒業研究発表会を開催し、4年生の59名が成果報告を行った。第32回日本柔道整復接骨医学会学術大会（12/2-12/3)にて4名の学生が口頭発表を行った。 ◆看護学科 4年生研究ゼミⅡにて、全学生1つの研究テーマで卒業研究指導を行った（12月末全学生提出済）。 学内において、各領域ゼミごとに研究発表会を実施した。 4年生1名（指導教員1名）が、日本学校メンタルヘルス学会第27回大会（会場：早稲田大学 早稲田キャンパス14号館）において、ポスターセッションによる研究成果の発表を行った（2024年3月16日）。 ◆看護学研究科 修士課程1名が学内で研究成果を公表した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
追加2	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	**学生評価方法の検討~~（ルーブリック評価表による専門科目の達成度評価）~~**	◆鍼灸学科 学期末試験・GPA・実力試験をもとにした総合的な学習達成度の評価。 ◆看護学科 引き続き、ルーブリック評価表を用いて専門科目の達成度評価を実施する。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：○ 看護学科：○	◆鍼灸学科 学期末試験、GPA、実力試験また新2,3,4年生については在学生オリエンテーション時の実力試験の成績などを参考に学生の学習達成度を評価した。4年生の国家試験合格率は鍼と灸の合格率の平均が80％以上であったが、学習達成度は、従前の4年生と比較して低かった。1,2,3年生の学習達成度については特に目立った変化はなかった。 ◆柔道整復学科 期末試験（筆記試験、実技試験）による科目ごとの評価とともに、GPAの結果をもとに学習達成度を評価した。 ◆看護学科 昨年度に引き続きルーブリック評価を用いて専門科目の達成度評価を実施した	
48	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属クリニック・附属鍼灸センター・附属接骨院の連携強化	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター･附属クリニック･附属接骨院の連携の強化。	附属鍼灸センター：○ 附属接骨センター：◎	◆附属鍼灸センター 附属クリニック、接骨センターより患者の紹介を受け鍼灸治療を行った。鍼灸センター来院患者について必要に応じて附属クリニックに診察を依頼したほか、附属クリニックや附属接骨センターの受診を勧めるなど附属施設相互の連携により患者の状態に応じた対応ができた。 ◆附属接骨センター 近年、接骨センターの患者数が増加していること、また附属クリニックの医師との連携が強化したことにより、学生に対して充実した臨床実習が展開できている。また実習を担当する教員の質の向上にもつながっている。	
49	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	~~附属医療施設における臨床研究（EBM）強化~~ ↓ **附属鍼灸センターにおける臨床及び臨床教育機能の強化**	◆鍼灸学科 引き続き、 ・附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 本学附属鍼灸センターの患者を対象とした科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、及び科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす―米国における「neck pain」との比較から―』の結果を解析し、論文投稿に向けてまとめ作業を進めた。 附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディや症例集積研究を全日本鍼灸学会等関連学会で報告した。また、鍼灸学科学部生や大学院生、研究生、センター研修生による、附属鍼灸センターを起点とした研究成果の発表も多数あった。 研究成果の論文等が『Medicina』『全日本鍼灸学会雑誌』『現代鍼灸学』などに掲載された。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
50	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化	◆鍼灸学科 引き続き、卒前･卒後における臨床教育の実施。	鍼灸学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 　感染予防対策を講じて臨床教育活動を行った。大学院生についても臨床実習の授業を行った。 　卒前教育として学部4年生の附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ、症例報告の書き方、症例報告、日本鍼灸理療専門学校2年生の見学実習、3年生の校外臨床実習の授業を行った。 　卒後教育として本学および他の専門学校の卒業生23名を研修生として受け入れた。研修生については、研修成果報告会（1月14日）を開催し研修2年目以上の10名が報告を行い研修成果が確認された。 　また鍼灸センタースタッフを対象に鍼灸の安全性に関する勉強会を行った（8月8日）。 ◆看護学科 オーストラリアCharles Sturt University(CSU)との派遣については、2023年8月7日~18日に３名の学生を派遣した。また2023年11月3日、相互派遣についてCSU Michael Keirman教授と話し合いが行われた。 シンガポール国立大学との間で相互研修派遣については、計画・準備を進めた結果、2023年3月17日~24日に４名の学生を派遣した。	
51	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	外部講師によるＦＤ実施	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 　5月24日に本学客員教授であるハーバード大学医学部教授のJian Kong先生による特別講演（タイトル：Modulation effects of acupuncture,imagined acupuncture and placebo acupuncture）を鍼灸学科で本学教職員、学部生、大学院生、研修生を対象として実施した。最先端の研究成果など今後の研究の方向性を提案する、大変示唆に富んだ内容であった。	
52	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	海外教育プログラム	◆３学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。	鍼灸学科：× 柔道整復学科：◎	◆鍼灸学科 　2024年度のボストン研修は実施可能な環境に戻りつつあることから、ボストン研修を再開するために、これまでに実施してきた研修期間で旅費を見積もってもらったところ、円安、航空運賃、宿泊費、現地の物価高の影響で、これまでの2倍近くの旅費となったこと、そして2024年度の入学者数の激減を考慮して、2024年度ボストン研修は見送り、今後のボストン研修のあり方、2025年度の実施に向けて検討することとした。 ◆柔道整復学科 　モンゴル国立医療科学大学の教員と次年度に予定されている海外研修プログラムの準備を行うことができた。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
53	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	カリキュラムの検討及び改善	◆３学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎	◆鍼灸学科 　2021年度から続けてきた成績を考慮した卒業論文のフォーマットの改定により、2021年度と同様に成績下位者と指導教員の卒業研究に係る負担を軽減したが、国家試験の合格率アップには至らなかった。 　全入の上、学力が低い学生数が増加傾向にあり、このような状況に合わせたカリキュラムの検討を行う必要が出てくると思われる。 ◆柔道整復学科 　2025年度スタートのカリキュラム改訂にむけて、全体の再評価を行うことができた。	
54	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	研究体制の充実	◆３学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化。 ◆IR委員会 教員業績調査を実施する。 （→調査結果に基づいて教員の研究活動に対し大学としての必要なサポートを行っていく。）	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○ IR委員会：◎	◆鍼灸学科 　リサーチゲートに2023年度までの各教員の業績を記入した。現在ある学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 　外部資金獲得については、2件の科研申請があったが採択は0であった。科研基盤研究(B)1件、基盤研究(C)2件が継続して実施された。 　学内特別研究費は申請した2件が採択された。 ◆柔道整復学科 　教員、大学院生、学部生ともに、学内で所有している実験器具を使用し、関連学会、特に日本柔道整復接骨医学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ◆看護学科 学科共同研究費による萌芽的研究の助成を行った。 ◆IR委員会 　教員業績調査を実施した	
55	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	・附属鍼灸センターにおける臨床研究（EBM）強化 ・研究成果の公表	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。 教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	鍼灸学科：○	◆鍼灸学科 　附属鍼灸センターに来院した患者からデータを集積した科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす―米国における「neck pain」との比較から―』の結果の解析し、論文投稿に向けてまとめを行った。 　附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディ、症例集積研究を行い、成果について学会発表、学術論文、修士論文、博士論文を公開した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
56	教育研究等の質の向上	研究及び学会活動	研究環境の共有・所属学会の相互活用	◆３学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科・看護学研究科：◎	◆鍼灸学科 　現在ある学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 　科研費の申請が2件あったが不採択であった。基盤研究(B)1件と基盤研究(C)2件の科研費による合計3件の研究が継続して実施された。 　学内特別研究費は申請した2件が採択された。 　学部3年後学期から始まる卒業研究において、研究倫理に関する講義を行い、講義終了後、理解度試験を行い、その成績を含めた報告書を提出した。 ◆柔道整復学科 　2023年9月26日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の32名に対し、研究に関する倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ◆看護学科 　3年次生を対象にゼミ担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った。 4年次生・大学院制を対象に、研究倫理を遵守して研究を行うよう各担当教員が指導した。	
57	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士前期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	看護学研究科：◎	◆看護学研究科 将来設計の相談を受け、助言した。	
58	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士後期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	保健医療学研究科：○	◆保健医療学研究科 　課程修了とともに、博士の学位を取得し、専門分野の研究職として活躍できる人材育成ができた。	
59	財政基盤の安定	入学者数の確保	~~定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連~~ ↓ **鍼灸学科による学生募集のための活動** **（NO.59に統合、NO.60削除）**	◆鍼灸学科 鍼灸学科広報ワーキンググループを中心としたアドミッションセンターとの連携による、鍼灸および鍼灸学科の認知度を高めるための広報活動の企画・運営・評価。 附属鍼灸センターによる中高生に対する鍼灸治療体験の実施。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 　昨年度までと同様に1～3か月に1回のペースで鍼灸学科広報ワーキンググループによるミーティングを行い、オープンキャンパス、広報活動などについて検討しが、オープンキャンパスの参加人数が激減し、その結果、2024年度入学者数は21名と激減した。今後はオープンキャンパスに多くの学生に来てもらえるような広報活動が必要であると思われる。	
~~60~~	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連 ↓ 鍼灸学科による学生募集のための活動 （NO.59に統合、NO.60削除）				

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
61	財政基盤の安定	入学者数の確保	高校訪問の実施	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。 ◆アドミッションセンター 引き続き、事務職員が教員と連携して、指定校や本学とつながりが深い高校に対して高校訪問を実施する	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ アドミッションセンター：○	◆鍼灸学科 高校へ出向いての出前授業、本学内で実施する高校生向け模擬授業を実施した。 豊洲フェスタ、とよすパークフェスタ、において鍼灸ブースを出店し、鍼灸と本学の認知度に努めた。また鍼灸学科教員のメディア出演は、本学科の知名度の向上につながってきていると思われる。高校生の鍼灸に関する認知度を効果的に上げるために、鍼灸学科独自のInstagramを活用した広報活動を行った。高校での出前授業など事務広報からの情報に応じて行った。 ◆柔道整復学科 柔道整復学科の教員と高校の教員（柔道部の監督・顧問）との深いかかわりから、数多くの入学生を紹介頂いている。柔道大会の会場にて、高校の教員（柔道部の監督・顧問）に対して広報活動を行うことができた。 ◆アドミッションセンター 順次業者主催の高校内ガイダンスや会場ガイダンスに参加し、大学のPRを行った。	
62	財政基盤の安定	入学者数の確保	スポーツ推薦入試の拡充	◆柔道整復学科、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 オープンキャンパスの参加者や大学を訪問した高校生からスポーツ活動推薦の問合せが多く、積極的に情報提供を行った。	
63	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進（入学時におけるミスマッチングの再掲）	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦入試からの入学者枠は、2022年度は18校であったが、2023年度は17校となった。2023年度受験者数8名合格者数8名は、2022年度と変わらず。	
64	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進（入学時におけるミスマッチングの再掲）	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦からの入学者の評価は概ね良好だった。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
65	財政基盤の安定	入学者数の確保	オープンキャンパス	◆３学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。 ◆鍼灸学科 アドミッションセンターとの連携によるオープンキャンパスの企画・実施・評価。 (もしくは3学科共通の計画)	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：△	◆鍼灸学科 　オープンキャンパスのタイミングに合わせ、広報ワーキンググループを中心に（1～3か月に1回程度）、アドミッションセンターと連携してオープンキャンパスの内容などについて検討・準備を行い、LINE等を通じた個別来校の対応、オープンキャンパスを開催した。オープンキャンパスは全て対面で行った。しかしオープンキャンパスへの参加者数が激減し、それに伴って入学者数も激減したことから、今後、SNSなどを駆使した柔軟な広報活動などを行い、オープンキャンパスへの参加者を増やすことが必要だと思われる。 ◆柔道整復学科 　2023年度は、オープンキャンパスを計8回実施した。柔道整復学科を希望した生徒の参加人数は207名であった。 ◆看護学科 　オープンキャンパスを計４回開催した。来場者数は、359名であった。2022年度の来場者数は、415名であったのと比較すると減少している。	
66	財政基盤の安定	入学者数の確保	ホームページの充実	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター 　運営委員会での検討を重ね、動画コンテンツやをSNSを充実させ、オープンキャンパスなどの参加増加に努めた。	
67	財政基盤の安定	入学者数の確保	宣伝広告	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター 　運営委員会において効果的な広報媒体の検討を行い、受験サイトへの掲載を大手２社に絞り広報を行った。 　オープンキャンパスの告知メールも時期を選んで業者の持つ医療技術職に興味ある受験生に発送した。	
68	財政基盤の安定	入学者数の確保	卒業生へのアプローチ	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例社会人入試、編入学入試）体制の整備。	柔道整復学科：○	◆柔道整復学科 　本学の卒業生の勤務する接骨院に来院した患者が本学に入学あるいはオープンキャンパスに参加するなど、卒業生による紹介が増加している。	
69	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	◆公的研究支援室 引き続き、応募意欲のある研究者を中心に外部の科研費獲得セミナーや外部講師による科研費申請書添削サービス等の体制を整備し、科研費間接経費の活用を促進する。	公的研究支援室：△	◆公的研究支援室　　科研費間接経費の活用は十分に図れたが、結果としての科研費補助事業の採択者がおらず、新たな外部資金の確保には至らなかった。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
70	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費等研究助成事業	◆３学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	鍼灸学科：△ 柔道整復学科：○ 看護学科：○	◆鍼灸学科 科研費申請は2件があったがいずれも不採択であった。科研費基盤研究（B）1件と基盤研究（C）2件の研究が継続して実施された。 ◆柔道整復学科 学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための1名の応募があった。 ◆看護学科 科学研究費など研究費助成は一定数あった。ただし、その他の研究助成へのトライアルは少なかった。	
71	財政基盤の安定	外部資金の獲得	経常費補助金の増加	◆財務部 引き続き経常費の補助要件を十分検討し、利用可能な補助金獲得を目指す。	財務部：△	補助金各種調査票の内容を十分に吟味した上で、特に新たな調査票項目については補助金獲得につながった。しかしながら、収容定員と学生現員に大きな乖離が存在しており、このため補助金全体としては大きな減額となってしまった。	
72	財政基盤の安定	外部資金の獲得	外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	◆３学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。 ◆鍼灸学科 外部資金獲得のための環境づくりについての検討。	鍼灸学科：△ 柔道整復学科：△	◆鍼灸学科 教員が外部資金のデーターベースの整理を行うことは困難で、外部資金の情報を得る余裕はなく科研費のみの申請となった。外部資金のデーターベースの収集や整理は会計課・公的研究支援室等で行うことが望ましいと思われる。学科として、学部資金の応募を推奨したが、科研費の応募は2件にとどまった。 ◆柔道整復学科 学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための1名の応募があった。	
73	財政基盤の安定	外部資金の獲得	学内特別研究費	◆３学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：○	◆鍼灸学科 学内特別研究費は2件の申請があり、2件が採択された。申請書作成の相互協力は研究グループ内で行われた。 ◆柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、応募し1名が採択された。 ◆看護学科 特別研究費などの応募を行い、特別研究費（新規１件）が採択された。	
74	財政基盤の安定	外部資金の獲得	教員研究の推進のための学科共同研究費による萌芽的研究助成	◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	看護学科：◎	◆看護学科 学科共同研究費により、教員研究を推進した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
75	財政基盤の安定	人件費の抑制	教員	◆３学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎	◆鍼灸学科 　現在の教員構成により、国家試験の合格率を約80%に保つことができたと考えられ、学生の質や留年者、退学者の数のバランスを図ることの難しさを考慮すると、教員の構成にあえて手を付ける必要はないかと思われるが、年齢構成を考えると博士後期課程を修了した学生を積極的に雇用して将来に備えるべきだと考える。 ◆柔道整復学科 　専任教員が補助教員に入ることで、よりきめ細かい実技教育がなされたとともに、人件費の抑制につながったと考えれる。	
76	財政基盤の安定	人件費の抑制	人件費の抑制	◆法人本部 引き続き、過去５年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。	法人本部：○	・2023年2月に導入した人材マネジメントシステムへの全教職員の人事基本情報の登録を終えた。 ・今後の課題としては、更なる人材情報の活用に向け、情報管理を行う。 ・人事評価制度の構築、導入については、引き続き検討課題とする。 ・職員就業規則を一部改定（2024年4月1日施行）により、大学事務職員の土曜日出勤を見直し、2024年度以降の勤務条件を改善する制度の準備を行った。	
77	財政基盤の安定	物件費の削減	購入単価の見直し	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。	財務部：△	◆財務部 電力会社の変更により、電気料金単価を抑えることができたが、その他多くの物品で値上げが行われ、全体として削減には繋がらなかった。	
78	財政基盤の安定	物件費の削減	一般管理費の契約見直し及び経費節減の実施。 中期計画期間の最終年度までの目標⇒一般管理経費５％削減	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	財務部：△	◆財務部 電気需給契約の見直しにより物件費の削減は実施出来たが、円安による原材料他あらゆる物品の上昇をカバー出来ず、十分な成果は上げられなかった。	
追加3	財政基盤の安定	物件費の削減	**ペーパーレス化の推進**	◆財務部 2024年度の電子帳簿保存法の義務化に照準を合わせ、タイムスタンプの導入を検討する。	財務部：△	◆財務部 電子帳簿保存法への対応は十分行うことができたが、ペーパーレス化の推進という本来の目的を果たせたとは言えない。ペーパーレス化の推進のためには、タイムスタンプの導入は不可欠と言える。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
79	財政基盤の安定	余裕金の活用	現預金の確保と活用	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	法人本部：◎	・資産運用状況については、資産運用規程の条件を遵守して残高管理している。 ・月次で資産運用報告書を作成し、理事長、監事、内部監査室に定例報告を行い、2023年度開催の各理事会・評議員会にて、資産運用状況報告を行った。 ・2023年度は、債券の満額償還による再運用と、保有株式の時価総額の増加を活用して、保有株式の一部を売却して債券の運用に再配分し、運用割合の見直しを図った。 ・2024年3月末の保有有価証券の時価評価損益は、1億1,886万円のプラス、年間の受取利息合計は、2,494万円となった。	
80	業務運営の改善	ガバナンスの強化	大学の適切な運営実施のためにＩＲ委員会を活用し、学内外の様々なデータの収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆ＩＲ委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。 ◆事務局 法人本部と連携し、ガバナンス・コードを策定を進め、ガバナンスの強化に努める。	IR委員会：◎ 事務局：△	◆IR委員会 　令和5年度も学修行動調査を実施したほか、学長の指示に基づき、初めて教員の業績調査を実施した。 ◆事務局 　ガバナンスコードの策定に向け、参考となる資料の収集を行った。	
81	業務運営の改善	内部統制の強化	教職員等を対象に研究不正防止を目的とした倫理観や責任感を培うため、研究活動を通して全方位的な不正防止策への取組について周知徹底を継続実施する。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。） ◆公的研究支援室 公的研究費の管理・監査のガイドライン（令和3年2月1日改正）に基づき、不正発生要因を抽出した不正防止計画に取組み、不正の発生し難い体制整備に努めていく。	財務部：○	◆財務部・公的研究支援室 外部講師による研究倫理セミナー、確認テストの実施。更には学長による研究不正事例記事の配信、内部監査室との連携により、不正の発生しにくい体制を構築している。	
82	業務運営の改善	内部統制の強化	監事との意思疎通を定期的に実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。また、監査結果や意見の速やかな改善。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的に実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。	内部監査室：◎	◆内部監査室 　内部統制を図るうえで、内部監査室としては、定期監査（会計監査８回（渋谷、有明各４回）、公的研究費監査１回）を実施するとともに、相互補完的に位置付けられている監事・会計監査・内部監査室による三様監査を効果的に進め、定期的に意思疎通を図り、必要な情報を相互に交換し、理事長へ監査の報告を行った。 　また、東京有明医療大学中長期計画のPDCAサイクル実施状況（2022年度分）について、業務実施状況のヒアリングを実施した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
83	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路先、大学イベントの公表	◆アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果･学生の進路･大学イベント等の公表。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター 情報公開ページの見直しを行い、情報を更新・掲載した。	
84	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	教員の活動に関する公表	◆アドミッションセンター 引き続き、ＩＲ委員会と連携して、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。 ◆IR委員会 教員業績調査結果の公表方法の検討。	アドミッションセンター：△ IR委員会：◎	◆アドミッションセンター 教員の成果の把握が十分なされておらず、教員の活動に関しての情報公開ができていないが、IR委員会においては教員の業績調査に着手した。 ◆IR委員会 教員の研究活動をリサーチマップに入力し、常に最新情報が公表されるようにした。	
85	業務運営の改善	情報公開（削除）	~~ソーシャルメディア~~（削除）				
86	業務運営の改善	Webサイト	更新作業の効率化	（2023年度　計画なし）			
87	業務運営の改善	教職員の業務省力化	ICT導入による業務省力化	◆情報センター 22年度に予算の順位が下がったため、より安価にできる方法で設計する。	情報センター：◎	◆情報センター 安価な製品の中から、承認TIME(SBIビジネス）とGoogle Workflow（サテライトオフィス）を選び比較して、標準テンプレートが124種あり、内容を改変する事でカスタマイズできるGoogle Workflowに決定した。	
88	自己点検・評価	外部評価機関の活用	日本高等教育評価機構による認証評価受審	◆評価委員会 認証評価結果での参考意見等を踏まえた改善策を策定、実施していく。	評価委員会：◎	令和4（2022）年度に受審した認証評価結果での参考意見等を踏まえ、また、次期認証評価の受審も見据えて新たな基準をベースに第2期中期計画を策定した。	
89	自己点検・評価	自己点検・評価の実施	中期計画、年度計画について、各部署において、自己点検・評価を実施するとともに学長を中心とした評価委員会で適切な進捗管理を実施。	◆評価委員会 骨太の方針に基づき、次期中期計画を作成する。	評価委員会：◎	策定した第2期中期計画の見直し改善を行うためPDCAサイクルの実施方法を検討した。	
90	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	シミュレーション・ラボの整備及び有効活用	◆看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	看護学科：◎	◆看護学科 ４年生科目「シミュレーション演習」にて、シミュレーションラボを活用した。 看護学科において「シミュレーション教育プログラム開発」の３カ年計画の2年度目として、科目としてシミュレーターを用いた演習を実施した。	
91	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存施設・設備の調査による状況の的確な把握。その結果に基づく保守管理計画を策定し維持保全を推進。	◆総務部 2021年度に作成した長期修繕計画を基に、計画を推進していく。	総務部：◎	◆総務部 点検結果を基に施設設備の現状を的確に把握し、必要な箇所については適宜修繕を実施し、キャンパス環境の整備を行った。 株式会社清水建設の助言を受けながら長期的な設備保守管理計画案の作成に着手した。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
92	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	防災設備	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：◎ 財務部：○	◆総務部 点検の結果、2023年度は一部の消耗品の交換を行い、施設の維持に努めた。 2024年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。 ◆財務部　2023年度に緊急的な予算執行は無かったが、引き続き大学構内の安全性が確保出来る様、予算措置を講じていく。	
93	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	衛生設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：◎	◆総務部 定期点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2024年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	
94	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	電気設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：◎	◆総務部 点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2024年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	
95	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	建築設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：◎	◆総務部 定期点検については、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2024年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	
96	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存の安全管理・危機管理（リスクマネジメント）体制の検証及び体制の見直しや強化を推進。また、マニュアル等の改訂及び周知徹底を促進。	◆危機管理委員会 危機管理個別マニュアルの充実（各担当部署、委員会での対応推進） ◆総務部 江東区との災害時における協定締結の検討。	危機管理委員会、総務部：◎	◆危機管理委員会、総務部 第2期中期計画策定に向けて、様々な危機管理への対応を協議した。	
97	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	備蓄	◆危機管理委員会、防災対策委員会 備蓄食料を計画的に入れ替えるため、2023年度は消費期限が切れた非常用飲料水を200本に入れ替え、新たに非常用食料を200食分購入する。	危機管理委員会、防災対策委員会、総務部:◎	◆総務部 備蓄食料を計画的に入れ替えるため、2023年度は消費期限が切れた非常用飲料水を200本に入れ替え、新たに非常用食料を200食分購入した。	
98	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	守衛、防犯カメラ	◆事務局 2021年度に入れ替えた防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に努める。	事務局（総務部）：◎	◆事務局（総務部） 防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に務めた。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
99	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管･二重化	◆情報センター 2022年度に認証基盤、ファイルサーバの更新を完了しなかった場合には、2023年度に更新する。	情報センター：◎	◆情報センター 認証基盤･ファイルサーバー4基の移行が完了し、各種試験を行って問題がない事を確認した。2024年度には、データ二重化とランサムウエア対策を実施する事にした。	
100	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	研究環境の整備	◆３学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。（科研費間接経費の有効利用を含む）	鍼灸学科○ 財務部：○	◆鍼灸学科 今年度も定員の70%の入学者にとどまったため、昨年度同様、学科共同研究費による機材の新規購入などを控えてきた。今後、研究環境の整備に関わるような使途についての検討をしていくが、2024年度の入学者が激減したことから、状況は以前に増して厳しい状況となる。 ◆財務部 1年間に三回実施する学長からの研究不正配信記事のメール送信の際、研究環境についての要望を収集している。今後も継続していく。	
101	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	課外活動団体の部室確保	◆学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	学生委員会：○	◆学生委員会 サークル活動が再開したが、コロナ禍以前の頃よりは活発化していなかった。	
102	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	ネットワーク関係の整備	（2023年度　計画なし）			
103	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	~~附属鍼灸センター~~ （削除、NO.31へ）				
104	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	附属鍼灸センター：○	◆附属鍼灸センター 患者への対応として必要に応じて医療機関と連携することができた。	
105	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	~~附属鍼灸センター~~ （削除、NO.31へ）				
106	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	区民公開講座の開催	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	看護学科：×	◆看護学科 今年度は開催なし。	
107	キャンパス整備・危機管理	附属接骨センターの充実	人的・設備環境の整備	◆附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 柔道整復師の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、バーテーションで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	

①中長期計画一覧表（２０１８～２０２３年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2023年度	実施結果		備考
					評価（◎、○、△、×）	コメント	
108	キャンパス整備・危機管理	サーバの整備		◆情報センター 2022年度に認証基盤、ファイルサーバの更新を完了しなかった場合には、2023年度に更新する。	情報センター：◎	◆情報センター 認証基盤・ファイルサーバー4基の移行が完了し、各種試験を行って問題がない事を確認した。2024年度には、データ二重化とランサムウエア対策を実施する事にした。	
109	キャンパス整備・危機管理	職員の業務用PCの整備		◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	情報センター：◎	Windows 10のサポートは標準で2025年10月14日までであることを確認した。 また、コンピュータごとに有償で拡張セキュリティ更新(ESU)プログラムを購入することで期限以降も最大3年間セキュリティ対策のサポートを受けられることを確認した。	
110	キャンパス整備・危機管理	コンピュータ教室	老朽化した機器の入れ替え	（2023年度　計画なし）			
111	キャンパス整備・危機管理	セキュリティ対策	セキュリティ対策	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	情報センター：◎	◆情報センター 11/14 職員がサイバー攻撃に対するインシデントの事例と戦略マネージメント層に求められる役割について学習をした。3/19にブラウザを閲覧して現れるクッキー(Cookie)への同意についての解説、スマホアプリの危険性について解説し注意喚起を行った。	
112	キャンパス整備・危機管理	安全衛生管理	安全衛生管理	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康・診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。	衛生委員会：◎	◆衛生委員会 計画通り、毎月、産業医や衛生管理者が職場巡視チェックリストを基に巡視を実施し、4月には健康診断とストレスチェックを実施した。毎月開催する衛生委員会において診断結果や巡視結果を確認し、必要に応じて改善を促した。	